大フィル80年とこの先

強く、明るく、ねばり強く

あなたが聴いた「大阪フィルの音」覚えてますか？

ナカノシマ大学2027年1月講座

交響曲は、「生きる力」を与えてくれるね





上／昭和の頃は扇町公園「大阪プール」の地下が練習場だった。左端は朝比奈隆下／喝采に応える指揮者の尾高忠明と楽員たち

©いずれも大阪フィルハーモニー交響楽団



初代音楽監督
朝比奈隆（1908～2001）

いつも、やる気満々のオーケストラですから



現音楽監督
尾高忠明（1947～）

1/13（水）18:00～19:40

会場 **大阪倶楽部4階ホール**（中央区今橋4-4-11）

受講料 **3,000円** 定員 **100名**

講師 **福山 修**（大阪フィルハーモニー交響楽団事務局長）

主催 ナカノシマ大学事務局（株式会社140B）

大阪にクラシックの種を蒔いた先駆者と、熱血楽団員が歩んだ進化の現在地を

大阪フィルの演奏を一度も聴いたことのない人は少ないと思いますが、最近はとくに要注目です。現・音楽監督 尾高忠明氏のもとで鍛えられ、演奏のレベルが凄まじい勢いで進化しています。演奏会の種類や馴染みの曲かどうかにかかわらず、一度聴きに行っていただけると「これは凄い」と揺さぶられるのでは。

今回の講師は、歴代音楽監督の信頼厚く、時には渡り合いながら、楽団の成長を後押ししてきた大フィルの名物事務局長、福山修さん。年に10回、定期演奏会のロビーで行われる「聴きどころ解説」で人気の彼が、「大阪らしいオーケストラ」の人間模様と、80周年を迎えた楽団の「一大プロジェクト」を語ります。お楽しみに!

〈講師からのメッセージ〉

オーケストラは生き物である!と昔からよく言われますが、世に数あるオーケストラにも、それぞれに個性があり、生い立ちや取り巻く環境によって形づくられ、成長し、今を懸命に生きています。

2027年に80歳の誕生日を迎える大阪フィルにも、生みの親である朝比奈隆と当時の楽団員によって築かれたDNAがあり、その個性は大阪の人びとによって育まれてきました。そう「大阪フィルの音は大阪の音」なのです。運営は大変ですが、なくてはならない、この愛すべきオーケストラの素顔を少しでも皆さまにお伝えできればと思います。



講師の福山 修さん

ふくやま・おさむ　1963年生まれ。兵庫県出身。大阪音楽大学器楽科卒業。1991年大阪フィルハーモニー交響楽団事務局に入り、コンサートの運営、広報、企画制作などに従事。初代音楽監督の朝比奈隆をはじめ、大植英次、井上道義、尾高忠明と続く歴代指揮者のもと、数多くのコンサートを担当、プロジェクトの立案やオーケストラ運営に携わる。2021年から現職。フェスティバルホールで年に10回開催される「定期演奏会」では、開演30分前からロビーの通路にてマイク片手にスタンディングで行う「本日の楽曲の聴きどころ」が名物になっている。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は2月20日（土）14時予定……「地元の“愛おしいもの”を紙の雑誌で届けたい」
講師＝岡田あき（泉州の季刊誌『Blank.』発行・編集人）